



【調査の概要】 *「全国」は「全国・公立学校」の結果を、「大阪府」は「大阪・公立学校」の結果を表しています。
 ○実施日：平成31年4月18日(木)
 ○実施校数・実施児童生徒数 小学校：41校(6年生)・3,054人 中学校：18校(3年生)・2,819人
 ○学力に関する調査
 小学校：国語・算数 ○学習や生活の状況・学校の取組に関する調査
 中学校：国語・数学・英語 児童生徒質問紙調査
 学校質問紙調査

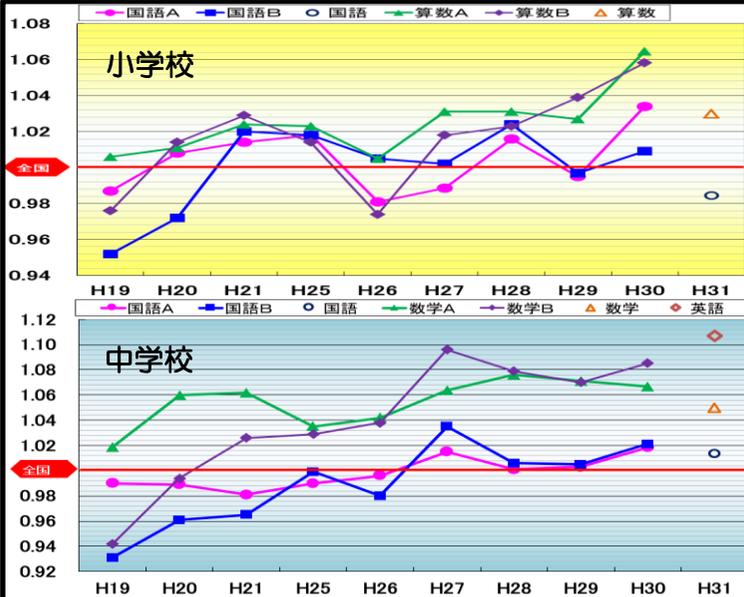
【調査結果の取扱い】
 本調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのため、序列化や過度な競争を目的とした取扱いにつながらないように十分配慮をお願いいたします。
 調査結果については、本調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要と考えます。
 なお、文部科学省では市町村や都道府県の平均正答率を整数で発表することとなっており、本市でも本年度より整数での公表となりました。
 また、中学校英語調査の結果は「聞くこと」「読むこと」「話すこと」の合計を集計したものとされています。「話すこと」に関する問題の結果については、今年度は参考値扱いとなっており、都道府県別、指定都市別の公表はされないことから、本市でも公表しておりません。

校種・教科別正答率(全国比・大阪比)

	教科	平成31年度(令和元年度)				
		大阪府	全国	高槻市	差(対大阪)	差(対全国)
小学校	国語	60	64	63	3	-1
	算数	66	67	69	3	2
中学校	国語	70	73	74	4	1
	数学	58	60	63	5	3
	英語	56	56	62	6	6

これまで、国語と算数・数学では、それぞれ「主に知識を問うA問題」と、「主に活用」の力を問うB問題が出題されていましたが、今年度よりA・B問題が統合されました。

経年比較(全国比 H19-H31)

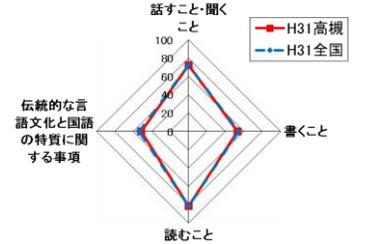


正答数分布・領域等別正答率 / 対全国比

小学校

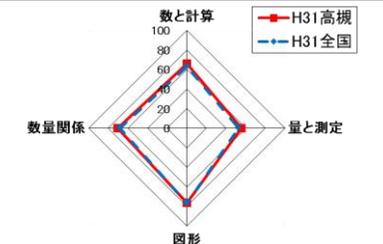
国語

設問数 14問
 領域等別結果について、「話すこと・聞くこと」領域は、ほぼ全国平均値と同様であるが、「書くこと」領域、「読むこと」領域、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は、全国平均値をやや下回っている。
 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くような問いに対して課題が見られる。



算数

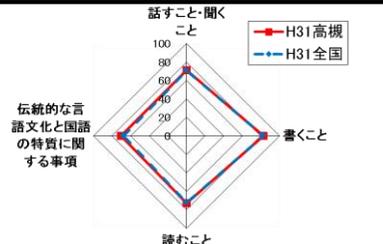
設問数 14問
 領域等別結果について、「図形」領域では全国平均値とほぼ同様であるが、「数と計算」領域、「量と測定」領域、「数量関係」領域では、全国平均値を上回っている。
 示された図形の面積の求め方や計算の仕方を解釈し、その求め方の説明を記述したり、適用する等の数学的な見方・考え方に関する問題では、すべて全国平均値を上回っている。



中学校

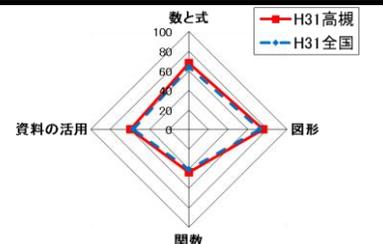
国語

設問数 10問
 領域等別結果について、「書くこと」領域では全国平均値とほぼ同様であるが、「話すこと・聞くこと」領域、「読むこと」領域、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、全国平均値を上回っている。
 話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えを述べるような問いに対して、少し課題が見られる。



数学

設問数 16問
 領域等別結果について、すべての領域で、全国平均値を上回っている。
 連立二元一次方程式を解いたり、簡単な場合についての確率を求めるような数学的な技能や知識・理解に関する問題で全国平均値を上回っている。また、事柄が成り立つ理由を説明したり、得られた結果を事象に即して解釈する等の数学的な見方や考え方に関する問題でも全国平均値を上回っている。



英語

設問数 21問
 領域等別結果について、すべての領域で、全国平均値を上回っている。
 日常的な話題について、情報を正確に聞き取る問いでは大きく全国平均値を上回っている。また、まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解するような問いや与えられた情報に基づいて、正確な文法を用いて書き直すような問いについても大きく全国平均値を上回っている。

